

# サンクチュアリセンターニュース

vol.86



6月17日(土)に、第1回伊豆沼・内沼自然体験講座「水辺の生き物採集と観察会」を開催しました。水生植物園でタモ網やセルビンを使って、多くの生き物が採集できました。定置網の魚の観察では、伊豆沼に仕掛けた定置網を引き上げ、ライギョやテナガエビなどを観察しました。皆さん様々な水辺の生き物に触れることができ、楽しめたようです。

平成29年7月号

## 「OH! バンデス」で活動が紹介されました!

5月30日、ミヤギテレビの人気番組「OH! バンデス」でオオクチバス駆除活動が紹介されました。取り上げて頂いたのは「解決! リョウ様のコーナー」。

突然、伊豆沼を訪れた永峯良ことリョウ様。テレビで何度も拝見していましたが、とても背の高いダンテイな方。早速、電気ショッカーボートに乗ってバスの駆除風景を取材したり、人工産卵床を引き上げてバスの卵を見つけたりと、沼の駆除活動を満喫して頂きました。「OH! バンデス」でたっぷり十数分、駆除結果のテーマも含めて丁寧に紹介して頂きました。取材、ありがとうございました!



永峯さんにも電気ショッカーボートを体験して頂きました(左)



ブラックバスのフライを試食(右)

# 自動ハス刈りロボット開発中！

伊豆沼を覆うハスは重要な観光資源である一方、ハスの下では酸素が少なくなるため、過度に繁茂すると魚や貝に悪影響を与えます。また水質悪化も懸念されます。そこで私たちは、試験的にハスの刈り取りを実施してきました。そして現在、環境省の受託研究によって、東京大学の海津裕先生のグループが自動ハス刈りロボットを開発中です。あらかじめ範囲を指定しておけば、自ら動いてその範囲を正確に刈り取ってくれます。このロボットによってこれまでに以上に効率的なハスの管理が期待されます。



開発中の  
自動ハス刈り  
ロボット  
(写真)  
今後の作業  
に期待大

## 豊田合成東日本(株)の方々が来館されました

5月27日に豊田合成東日本(株)の方々23名が来館されました。最初に入り口の地図模型とともに伊豆沼・内沼の地理的な成り立ちやハス、マガンといった自然についてスタッフが解説しました。豊田合成の方々の中には中部地方や九州地方出身の方が多く、その解説を興味深く聞いていました。中でも、「伊豆沼の標高はどのくらいでしょう？」とスタッフの問いかけに「50m！」や「30m！」といった答えが出るなか、正解はなんと6m。あまりの標高の低さに一同驚きの声があがりました。その後はスタッフの解説を交えつつ館内の展示や生き物を見学し、普段見慣れない生き物をじっくり観察する姿がみられました。



スタッフの説明を聞き入る豊田合成の皆さん

## 最近の取り組み

伊豆沼にはハスやヒシなどの浮葉植物が茂っています。浮葉植物は、生き物の住み家となり、綺麗な花を咲かせて観光客の目を楽しませたりします。一方で、増えすぎると他の水草の住み家を奪い、水中の酸素を減らし魚が住めない状況にします。そのため、ハスやヒシを少しだけ刈取り、生育量を適度な状態に保つことで、多くの生き物が共存できる環境が求められています。

写真は伊豆沼近くの池を写したものです。夏場にヒシが茂りすぎ、他の水草の住み家がなくなってしまう。そこで、ヒシが大きくなる前にその4分の1ほどを刈取りました。生き物が共生できているかどうか、経過を観察していく予定です。



池に茂ったハス・ヒシを刈取りました(写真左側)

## 伊豆沼・内沼生き物図鑑 ミサゴ *Pandion haliaetus*

沼の水面に勢いよく飛び込む大きなタカ、それがミサゴです。ミサゴは、トビ(とんび)と並んで伊豆沼・内沼を代表する猛禽類の一種です。頭と腹が白いことがトビと識別するポイント。もっぱら魚を捕食するので、魚鷹(うおたか)の異名があります。沼では主にフナやコイを捕っています。ちなみにミサゴの英名はオスプレイ。オスプレイといえば、沖縄の普天間基地に配備される際に話題となった米軍の飛行機ですね。ミサゴのように、水平飛行だけでなく空中停止もできるので、その名が与えられたのでしょうか。



沼の上空を華麗に飛ぶミサゴ

<事務局>

〒989-5504宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2  
(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団  
Tel:0228-33-2216 Fax:0228-33-2217

ホームページ:<http://izunuma.org/>  
E-mail:[izunuma@circus.ocn.ne.jp](mailto:izunuma@circus.ocn.ne.jp)